優 秀 賞

「　好きな季節は秋だと思っていた　」

公共学科　3 年　田熊紫織

2022 年の 9 月。私は大学 2 年生だった。
やっと夏が終わる。確かそんなことを考えていたと思う。

私は夏が嫌いだ。とにかく暑くて虫が多い。気付いたら蚊に刺されているのは 0 型だからだろうか。なんてくだらないことを考え、ぼんやり過ごしていた 10 代最後の夏休み。大好きな秋を待ち望み、涼しい部屋でゲームばかりしていた記憶がある。

時は流れ 2023 年、20 代として迎えた初めての夏、私は家で大好きな向日葵を育てた。毎日成長を感じ、水やりをすることが楽しくて、去年までは暗かった日常が黄色に照らされた。そうして私は人生で初めて夏が終わってほしくないと思った。

気付けば夏にはたくさんの魅力があった。上を見ると無限に広がる空と雲、夏を感じられる山や川。突然の雷雨だって私は好きだ。何よりよく眠れるし、自然を感じることができる。雨は家でダラダラ過ごす自分を肯定してくれている気がするから。近所で風鈴が揺れているのを見ると癒される。アルバイトが終わる 18 時過ぎ、空が夕日で満たされると今日も頑張ってよかったと思える。秋にはもう暗くなってしまうから夏だけの特権だ。夜、耳を澄ますと聴こえてくる虫の声が心地良い。たまに開かれる猫の集会。何を話しているのかな、なんて私はまたくだらないことを考えながら眠りについている。こんな平和な毎日が続いていることは、これ以上にない幸せなことだ。

あんなに嫌いだった夏が終わってしまうことが、あんなに好きだった秋になってしまうことが。こんなにも切なくなるなんて考えたこともなかった。私はもう夏が嫌いだなんて言わない。夏を愛しているのだ。